



体験レポート②

仕事を通して地域貢献、社内も美しくをモットーに

愛知県倫理法人会
峠 テル子 (74歳)



「活力朝礼」を核に、社員と共に人間的成長を目指して仕事に取り組んでいます。

私

は、昭和五十六年から、岐阜県安八郡で、一般及び産業廃棄物収集運搬処分業の株式会社名晃を経営しています。十年前に夫が病気で亡くなり、私が経営者として跡を引き継ぎました。

生前、夫が私を仏壇の前に座らせ、「テル子にどれだけ苦労かけたか。だけでも俺に、黙ってついてきてくれたんや」と、しみじみと一時間も話してくれたことは決して忘れられない思い出です。

我が社は、本社では毎朝七時半、現場では早朝六時から、吸い殻、空き缶拾いなど、道路の清掃や草むしりをスタートし、地域貢献に努めています。千六百軒余りのお得意様に喜ばれるよう、至誠の精

神を持って仕事をさせていただいています。

会社を設立した昭和五十六年は「消費は美德」という時代で、粗利益率が高く、多くの業者が産業廃棄物業に参入してきました。すると当然のことながら、許容積載量等の法規制が厳しくなり、わが社は「法規制を遵守する会社」として内外にPRしたのです。

今から三十八年程前、私の長男が小学校三年生のとき、「おまえんちは廃棄物業者だろ。汚いな」と言われ泣いて帰ってきたことがあります。この一件以来、〈収集処分業のイメージを変えたい。美化に努め、挨拶、礼節を重んじる会社にしよう〉と提案



社員は自主的に社内改革にチャレンジしています。



ろいろと迷いながらも話し合いを重ね、五月に入ると部署の垣根を越えて、自主的に「朝礼委員会」を発足させたのです。

「朝礼コンクール」が間近に迫ると、朝の早い仕事なのに、夜十時になっても練習をやめようとしませんでした。「もう帰りましょう」と呼びかけると、「社長、学生時代に戻ったようでとても楽しいです」と返され、私の方が驚かされました。結果は準優勝。「上には上がある」「自分たちよりもっと練習している会社があるんだ」という感想を聴いたときは、驕ることなく成長している社員を頼もしく思いました。

この日を境に、各部署の社員同士のコミュニケーションが深まってきたように思います。皆が一致協力して机や棚の整理整頓、後始末に努め、進んで朝礼に参加することで、自分自身の成長も実感しているようです。

発表にも一層の力を入れていきます。

我が社は四部署体制、三十三名の社員が働いています。各部署から順番に毎日一名ずつ、計四名の社員が、その日の『職場の教養』を熟読し、最も大切だと思う文章を選び、感想と共にノートに記します。そうして毎朝六時四十五分、七時三十分、九時、正午の四回にわたって、ノートに記した内容を電話で私に伝え、私と社員の一人朝礼が始まります。これは私と社員との大切なコミュニケーションの時間であり、社員が『職場の教養』の感想を記した一人朝礼のノートは、既に三十冊以上も積みあがりました。平成二十五年一月、所属する倫理法人会の会長から、「名晃さん、七月に行なわれる『活力朝礼コンクール』に出場してください」と依頼されました。「はい、分かりました」と承諾し、社員は「活力朝礼」について、益々学びを深めるようになったのです。

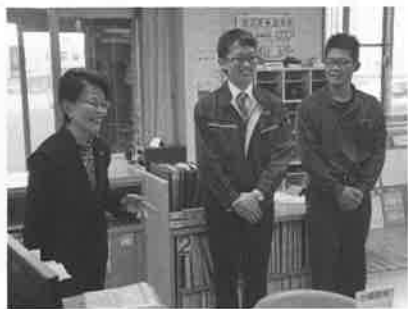
社員たちは当初、挨拶の角度、お辞儀のタイミング、発声など、他社の朝礼ビデオを見て、「自分たちにはできません」と一歩引いていましたが、い



清掃や花の種を植え、環境美化に貢献。

私は社員と共に人格的向上を目指し、「あじさい活動（一つひとつの花が集まってあじさいの花となる）」という新しいことにチャレンジし続けています。その中で、社員が自発的に「働き甲斐、生き甲斐を感じる会社創り」について思案し、お得意様の廃棄物置き場を「パワースポット化（清々しい場所）」し、安全な作業や目標管理に知恵を絞り、結果を出してくれるようになりまし

た。今までの「廃棄物業者だからきれいにしてよ」から「廃棄物業者だからきれい！」をモットーに、お客様の環境美化のお手伝いを心からさせて頂きます。



働き甲斐のある職場を目指して。